

様々な稽古・研修

研修所では、日直が毎日日誌を書いて、稽古や生活の記録を残しています。彼らの胸に日々去来する思いを日誌から抜粋しながら、様々な稽古・研修を紹介します。

能・狂言・茶道・講義・造形など

能と狂言は、基本となる謡の稽古を、茶道では美しい所作と、おもてなしの心を学びます。講義は、佐渡の歴史や自然、俳句など。また、山菜採りや魚のさばき方、陶芸や木工、藁細工などの生活の知恵を地元の先生方から教えていただきます。



能舞台上で謡の発表

・小笠原先生の狂言の稽古。人生で初めてこんなに正座しました。「あ、生きてる」という実感が痛みと共に湧いてきた稽古終わり… 何よりも自分のヘタレさに落ち込みました。意識で何とかカバーできるくらいの、超人的集中力を身につけられよう、日々精進したいと思います。

「武士道」「大和魂」、言葉だけで理解した気になってた日本人の心構えを、身をもって叩きこまれた2日間、本当に濃い時間でした。心に残っているのは「太鼓なんて道具使わずに、身体で表現してみろよ」という先生の言葉です。和太鼓というだけで、打てば響く、派手になる、スゴく見えたりする… それを使って一線を越えるためには、やはり先生の言う通りだなと思います。太鼓に頼り過ぎず、自分の中にあるエネルギーを内面から爆発させていきたいと思います。

・今日はオフ。だけど朝の8時半から午後の5時まで、わら草履を作っていました。4月に近くの川端さんに教わって初めて作った草履がフランスパンのように細長かったので、再度挑戦。今日までに仕上げなければ佐渡汽船でサヨナラだと所長のガンさんに言われ、みんな必死に作りました。前回、縄を引っ張った時に切れてしまったので今回はそこを慎重に…形は変になったけど成功！ガンさんからOKをいただきました。



太鼓・踊り・唄・笛

研修所では、太鼓を打てるだけでなく、踊れて、歌えて、笛が吹ける技術を身につけます。稽古は、外部講師の方々や鼓童のメンバーから指導を受ける時間と、研修生自身による自主稽古の時間があります。



・今日、太鼓の稽古で舞台メンバーの方から言われた一言。「お前、自分を出し切っていないやろ!？」頭を殴られたような感じだった。出し切っているつもりだった。言われてみて、いかに自分が自分の心をさらけ出すことをためらっていたか、何か自分の心につかえていたものに焦点があまりました。さあ、これからどんな風に自分を出していけるか…。

・容子さんの唄の稽古で、「今、一番聴かせたい相手」を思い浮かべて「酒屋唄」を歌う場面がありました。多くの人が自然に涙を流していました。口には出さないけれど、それぞれいろんな思いを抱えているんだな… と思ったり、歌っていて、皆の気持ちが一つになっていくのを感じました。一緒に生活して、同じ経験をしている者同士、きっともつと分かり合えると思うし、それが演奏にも繋がっていくはず。この感覚を大事にしていきたいと思います。

くらし

研修所での共同生活は、人と人との繋がりの中で生きていく力を身につける大切な要素であり、食事当番や身の回りの生活を研修生全員で協力し、工夫します。



・今日は一日を通して反省の多い日だった。田んぼ作業や機関誌発送の時、日直なのにリーダーシップが全然とれず周りに助けられてばかりだった。自分に欠けているのは、全体を見る力、人に指示する力、素早く動く力の3つだ。もう2ヶ月にもなるのにそれが直らないなんて意識が足りないのだ。これからこの3つを克服して、周りに迷惑をかけない、むしろ周りを助けるくらいになる。

実地研修

佐渡島内の公演やイベントで、準備段階から当日までの現場を体験します。また、鼓童塾などのワークショップのアシスタントをしたり、島内の幼稚園、小・中学校の生徒さんとの交流会などでは、実際に演奏したり、太鼓体験の指導に携わって、一つの公演を作る勉強をします。



保育園児向け太鼓劇「太鼓レンジャー」

・松ヶ崎中学校の学校林整備作業に参加した今日、ひたすら人の誠意、真心と触れ合い、気持ちが浄化されるのを感じた。普段は若い子と接することがないから、今日は中学生が持つ素直さ、元気さから本当にパワーをもらった気がする。最初、何気なくやっていた作業だが、リーダーが直向きに頑張る姿、わざわざこの為に帰ってきたOBの人達。保護者の方々もただ学校の作業というのでなく、この意味の大切さを感じながら参加していたことが真実、伝わってきた。

今までこういう作業はただ義務としてとらえていたが、今日は本当に楽しかった。共に流した汗から生まれる達成感。互いに笑いあって生まれる親近感。生まれて、勉強して、努力して、成長する過程は、何歳でも皆共通するなと思った。



・2013年の『アマテラス』に向けてのオーディションを見学する。坂東玉三郎さんの一人ひとりを見据え、しっかりと受け答えをしてくださる姿勢、しぐさ、立ち居振る舞いに見惚れてしまいました。このような場所で見学できるのも、鼓童研修所へ来たから…とても幸運に感じ、感謝の気持ちになりました。日々感じることで、講師の方々はじめ、沢山の素敵な方々と接する機会をできるだけ自分への振り返りにできるよう、意識して一日一日を大切にしていきたいです。

農作業(田んぼ・畑・柿)

農作業は無農薬・有機栽培、できるだけ手作業で、五感で感じることを大事にしながら取り組んでいます。田んぼは約五反(一反は20m×50m)の広さで種籾を選んで苗を育てるところから始め、研修所の約半年分のお米をまかないます。畑は自分たちで選んだ季節の野菜を作り、柿は剪定した枝の整理や摘蕾、毎月の草刈りなど秋の収穫まで月1回の作業を行います。

・羽茂の弘仁寺で日下さんに教えていただきながらの約7ヶ月の柿作業。剪定した枝を燃やし、草を刈り、摘蕾など…。しかし今日の収穫が一番の緊張です。自分達の穫った柿が鼓童の会の方やお世話になっている方々に届けられるということなのでいつもより慎重に、また落とすと1個20円払うらしい(決してこのような事実はありません※編集部注)という柿さがあったからです。実際僕は3個落としてしまったので60円今度払いに行こうと思います。今日一日で171箱分の柿を収穫できました。



祭りへの参加

佐渡では集落ごとに祭りがあり、「鬼太鼓」という芸能が盛んです。研修生は2年間の中で、柿野浦と岩首の集落の祭りに受け入れていただき、生活の中の祈りから生まれた芸能を肌身で感じます。



柿野浦の祭り

・今日は本当に楽しかった。一日、柿野浦集落の方々の人の温かさに触れて「生きていて良かった」と心から思った。みんなが幸せになる方法をこれからも探していきたい。今日はいろんなものへ感謝の気持ち、願い、いろんな思いを込めて太鼓を打った。研修所の太鼓もそうやって打ちたい。同期の男性達、「鬼打ち」かっこ良かったよ。